



大気海洋研究所屋上に設置した POTEKA

気象予測モデル高度化の研究にPOTEKA活用

千葉県柏市の東京大学大気海洋研究所にPOTEKAを設置しました。大気海洋研究所では、過密化する関東圏の航空機運航の効率的な手法を確立するため、数値気象予測モデルを高度化する研究にPOTEKAを活用しています。研究は、数時間から1日先までの気象予測精度を向上させることを目的としています。研究の中で、気象庁が柏市に設置した二重偏波ドップラー気象レーダーの観測を補完するために、大気海洋研究所屋上で、ディスクロメーターによる雨滴観測とPOTEKAの比較観測が行われています。

明星電気はPOTEKA事業を推進し、気象情報の精度向上に貢献していきます。

※ディスクロメーター：降水の粒径、落下速度を測定するセンサー

(担当:気象防災事業部)



平山農園敷地内に設置した POTEKA

POTEKA観測データの農業利用について調査開始

鹿児島県種子島の平山農園と、POTEKA観測データの農業利用について共同調査を始めました。

平山農園は、種子島から全国へ安納芋やジャガイモなどを産地直送しており、安納芋の甘さは種子島の気候・風土が大きく関わっています。POTEKAの気象観測データの利用価値や追加観測要素の要否などを含めて、作物の育成と観測データの相関関係を調査していただいており、POTEKAの農業分野での利用拡大につながることを期待されます。なお、この観測地点は、国内最南端(本日現在)に位置しています。

今後もPOTEKAの利用分野拡大と国内展開を推進し、サービスの拡充を進めていきます。

(担当:気象防災事業部)



「雲と雨の大研究」表紙

「雲と雨の大研究」に雲粒子ゾンデ掲載

株式会社PHP研究所が発行する「雲と雨の大研究 ～空のしくみとふしぎをさぐろう!～」(楽しい調べ学習シリーズ)に、当社の雲粒子ゾンデが掲載されました。

雲粒子ゾンデは大気中の雲粒子および氷晶粒子を直接観測できる機器であり、雲の観測方法のひとつとして本書に取りあげられています。雲の発生と降水(雨や雪)のメカニズムについてもわかりやすく解説されており、小学生が気象や防災について学ぶ際の一助となることを期待されます。

明星電気は、さまざまな観測用途のゾンデを開発し、空のしくみの解明に貢献します。

(担当:気象防災事業部、総務人事部)

【文中:敬称略】

Sensing & Communication

私たちは、独自の Sensing & Communication 技術により、革新的な商品・サービスを創造し、安全・安心な社会の発展に貢献していきます。